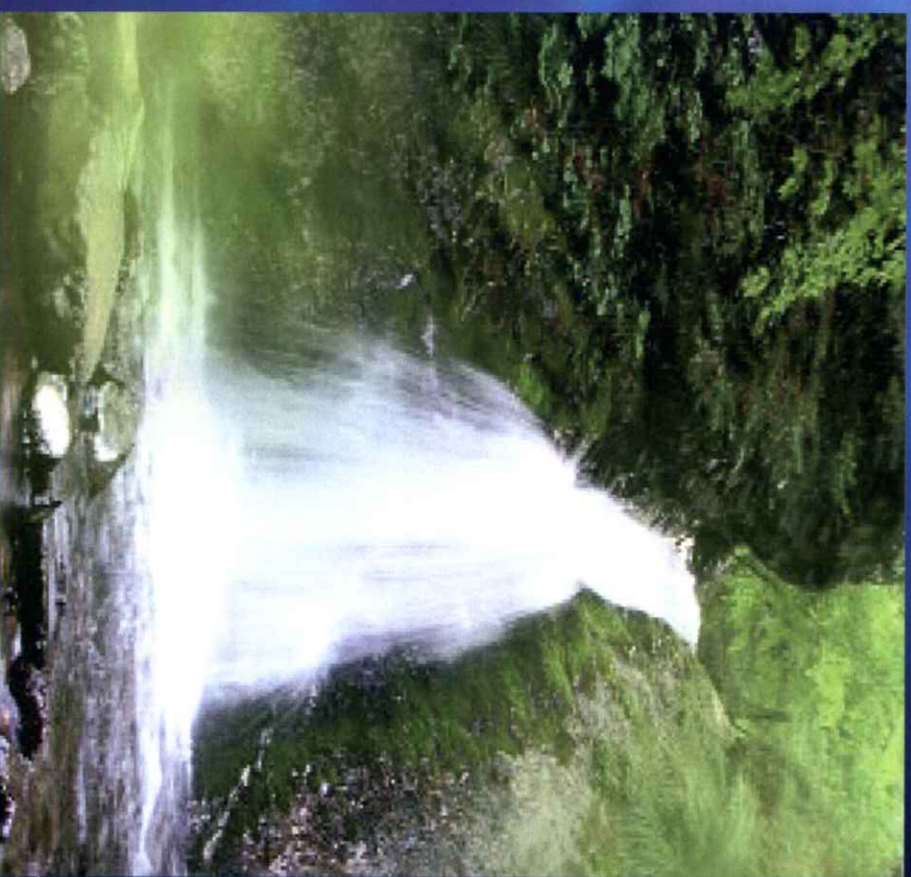


日本の水工場が発展していく理由



2012/1/25

はじめに

日本のもの造り産業。

私達はこれまで、世界を相手にしながら発展をしてきた力がある。
アイデアがある。信頼がある。

今、世界中が着目している資源がある。

今や石油などの化石資源に代わる重要な資源といわれるもの。
それは、水資源である。

そして、地球を守り大地の恵みを守る、未来を守る、ECO活動。

私達は、2010年から、

「日本の良質な水資源」「ECO」「世界中が認める信頼性」を融合させた

『日本の天然水ECOボトル製造工場』

を呼びかけています。

なぜ、今、水が注目されているのか？

水資源って、何???

世界の水の需要状況では、先進国では健康や美容などへの関心の高まりから、良質な水へのニーズが旺盛になりつつある。一方で、発展途上国では人口増加や経済発展によって、生活用水が不足する事態が起きている。

経済産業省が発表した2008年度の通商白書によると、安全な水の供給を欠いている人口は、世界で11億人とされ、安全な水が無いために、毎日4500人以上の児童が亡くなっているという。水不足は今後に深刻化するとみられており、**2025年には世界で55億人の人間が水不足に陥ると予想されている。**

新しい資源として水に着目したのはヨーロッパやアメリカの金融機関が遥かに早く、過去30年以上に渡り、欧米の投資ファンドは顧客からの預かり資金を効果的に運用するターゲットとして、「水」および「水に関する技術」を積極的に組み込んできている。

世界を金融パニツクに陥らせたアメリカ発のサブプライムローン危機や原油高の影響で、より高いリターンを追求する世界のスナーは天然資源や穀物などコモディティ（商品相場）にシフトするようになってきている。対前年比で53%という急速なピッチで拡大を続けており、現在では、総額2000億ドルを超える規模に膨らんでいる。

『現在、原油価格の高騰が大きな問題となっているが今後は水の値段も確実に上がり、水をめぐる争奪戦も激化するに違いない。』 そのように世界では資源として重要視されているのが、水資源です。

20世紀
世界の人口→3倍
水の需要→6倍

2025年
世界で55億人が水不足に陥る



日本の水は。軟水・中硬水
非常に美味しい成分バランス
アジア諸国を始め、世界に
美味しい水を低価格で提供

高性能・低価格・安定量産 それらを提案できる製造システム とは？

■ 大量生産・低コスト化を実現させたトルコメーカーの製造システム

なぜ、今、トルコメーカー製なのか？

現在のトルコは、先進国であり、経済面でも自立できている国として、認識されていると思います。その背景には、世界を代表する食品メーカー、機械メーカー、自動車メーカー、などがトルコに生産工場を展開＝研究・技術力、探究心、国民性、など、様々な要素が産業発展につながっていると考えられます。また、現在では、輸出品目の大部分が機械類であり、工業国として、その技術力・信頼性は証明されています。

例を一つ挙げさせて頂くと、日本を代表する『TOYOTA』の『TOYOTA トルコ』は、生産技術の改善に努めた結果、3年連続 世界品質1位 という記録出せた。というエピソードがあります。

トヨタでは世界中の品質を同じ指標で定期的に監査している。2003年10月のトルコ・トヨタの監査結果は品質欠点ゼロで世界トップ品質となった。しかし、私は一度だけの好結果にうかれてはいけません。三回連続してゼロ欠点が達成できたらその時初めて本当に力がついたと認識しようと全員の前で話した。翌年新型カローラVersoの品質監査もゼロ欠点だった。このような2年連続ゼロ欠点に日本のトヨタはびつくりし始めた。それで私は2004年9月の出荷品質監査で、もう一回ゼロ欠点を取りに行け、と命令した。何でも1回ゼロ欠点をとりたかといくと、これを通じ、TMMTの根元を見直し、我々の力をもう一回強くしようという目的だった。それで、TMMTの皆が張り切ってやってくれて、結果としては三年連続ゼロとなり、トルコ・トヨタの「高品質」は世界中に認知された。トルコ人は日本人を尊敬しているだけではなく、非常に賢く勤勉である。

* 『トルコの自動車産業とトヨタの事業進出 / 小林 浩治 前トルコ・トヨタ自動車社長』より抜粋。

飲料水の生産大国トルコが長年の実績と経験で作り育ててきた、PETボトル飲料水プラントの御提案

そして、信頼を獲得してきたその技術力・国民性は、昔から、国内・ヨーロッパの飲料水を大量に生産する技術でも培われてきたものでした。

＜トルコの水道水は硬水であるため、すでに約40年前からボトリングされた飲料水が普及していた？＞
一般家庭では水道水を直接飲用しているところもあり、極端に悪い状態ではない。

しかし、硬水であること、蛇口に至るまでの配管、建物内での貯水の方法、衛生面で信頼できない点が多いことを考えると、直接飲用しないほうが良いとされており、

トルコ国内では、ポリ容器(PETボトル)に詰められたミネラルウォーターが普及していて、アンカラ市内に限らず、地方でも食料品店(バツカル)では必ず売られている。種類は0.3リットル入りから5リットル入りまで各種ある。また、家庭用として19リットル入りの特大ボトル(5~7TL、手動ポンプで汲み上げる)を買うことも多い。(トルコ大使館情報より抜粋)

↓
従って、トルコでは、

国民が不自由しない量の飲料水生産が求められていた → 1時間で4万本を製造する工場は一般的

安定稼動・短期量産システムの追及と研究

日常で気軽に飲料できる価格を求められていた → トルコのミネラルウォーター末端価格 @40円~50円

コスト削減の追求と研究

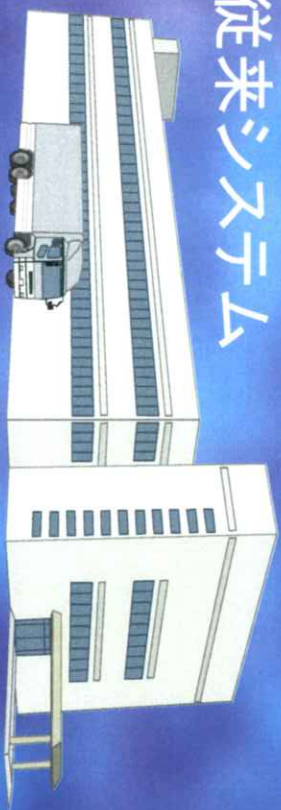
↓

その結果、トルコメーカーでは、日本・アジアの技術を越えていると言っても過言ではない性能の機械が稼動しています。製造からメンテナンスまで、非常に合理的にブラッシュアップされたシステムを、これまでになかった低価格にて、私達は日本の経済産業界に提案できるルートを構築して参りました。
その価格は、従来国内製品の半分以下に匹敵致します。

導入メリットの一例

私達は、**dogrusoz makina 社**(トルコ)が研究・開発・SIを繰り返し、絶え間ないブラッシュアップをしてきたシステムを低価格でご提案しています。

従来システム



(例) 500ml × 1000万本生産システム

国内メーカー製の場合

製造システムのみ...10億円~12億円

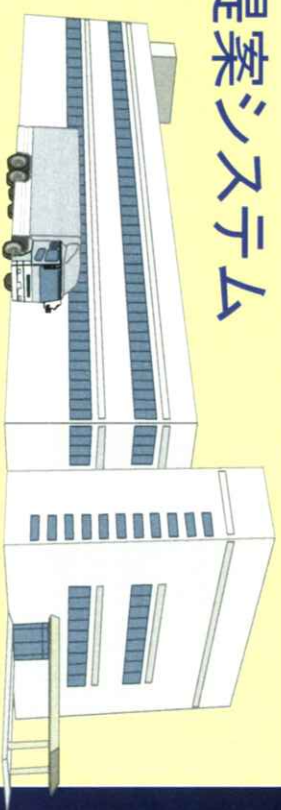
性能保証、保証期間がつかないメーカーが多い。

ECOボトル(軽量ボトル)やECO規格資材に対応していないシステムが多い。

良質・低価格・ECOな資材を使用する場合は、改造が必要。

2012/1/25

提案システム



(例) 500ml × 1000万本生産システム

トルコメーカー製の場合

製造システムのみ...4億円~5億円

性能保証あり、保証期間2年あり

生産指導、国内メンテナンス体制あり

ECOボトル(軽量ボトル)・ECO規格資材に対応

良質・低価格・ECOな資材が選択できる

『日本の天然水ECOボトル製造工場』のテーマ

4つのテーマ

1. 「良質・豊富な日本の水資源＝身近な資源で産業を発展させていきたい」
2. 「トルコメーカーの高性能・低価格製品を通じ、製造業の発動力になりたい」
3. 「良質・低コストなECO資材の使用を広めたい」
4. そして、「地域社会に役に立ちたい」

私達をご提案する水資源事業を、是非、皆様にも、ご検討頂けますよう、どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

詳しい内容につきましては、株式会社サプライズ(TEL:03-5687-8288)へ御問い合わせ下さい。